

カンサス州：小麦作柄と気象状況

2002年9月1日

2002年産カンサス冬小麦作柄概況纏め：

気象及び作柄概況：

2002年産冬小麦の播種は2001年9月初めに開始されたが、州の凡そ3/4に於いて土壌水分がShortの状況で、播種の進捗は遅かった。9月9日現在5%で播種が完了した。9月下旬から10月初旬にかけ降水があり播種は進み、2001年産及び平年より多少早い進捗を示した。10月下旬にも有効な降雨があった。11月4日現在州の99%で播種は完了し（2001年産同期：91%、平年：96%）、11月25日には99%の圃場で出芽していた。出芽も2001年産並びに平年より多少早めであった。

カンサス州各地の12月～1月の降水量は少なく、特に西部にて土壌水分不足が顕著であった。1月末のTopsoilの水分は、Very short:35%、Short:39%、Adequate:23%、Surplus:4%であった。小麦の生育状況は、Very poor:12%、Poor:20%、Fair:41%、Good:25%、Excellent:2%であり、多くの圃場にて小麦に水分不足によるストレスが現れていた。風害及び凍害は軽度であると報告されていた。

2月には雪、みぞれ、降雨等により州東部から中央部では土壌水分が多少改善されたが、州の88%の圃場で土壌水分はShortからVery shortと報じられていた。小麦は水分不足に因り根の発育が悪く、旱害の症状を示し、GoodからExcellentに評価された圃場は26%に過ぎなかった。

3月半ばより小麦は休眠から覚め、分蘖を開始し、4月7日現在14%がJointing（節間伸長）していた（平年：36%）。4月30日には全州の68%がJointing（昨年：64%、平年：83%）であり、土壌水分不足が生育の遅れの原因となっていた。風害は全州で14%に被害有りと報告されていた。南部では平年より早く4月終わりに出穂する小麦が現れた。幸いなことに5月中の気温はそれ程上昇せず、又5月中旬に州東南部を中心に降水が有り出穂中の小麦にとり有効であった。小麦は5月に入り出穂期に入り、南中央地区及び南東地区では一部開花の段階に入った。5月19日現在全州で79%が出穂していた（C:91%、SC:89%、SW:88%）。土壌水分は中央及び南中央地区でShort～Very Shortが27～30%にまで改善された。気温が上昇すると共に南西地区、南中央地区では黄さび病（Strip rust）の被害が報告された。

6月に入り州西南部の気温は上昇し103～111度Fを記録した。降水は殆ど無く登熟初期の小麦にとって最悪の条件となった。6月4日の段階でSWでは32%がTurning（登熟期）しており、SCでは72%がTurningであった。作柄はVery poor:

21%、Poor:24%、Fair:32%、Good:22%、Excellent:1%であった。

6月の気象はその後高温・乾燥の状態であり、小麦は急激に枯熟した。6月11日の段階で完熟期の小麦は15%と報告され、一部で収穫が開始された。殆どの圃場で小麦は登熟期にあった。

6月1日のUSDAによる生産量予想では、カンサス州の冬小麦単位収量は35.0bu/ac（昨年実績は40.0Bu/ac）と極めて悪い予想となった。6月中旬に全州で降水（1週間計：0.41~0.99）が記録され収穫作業が中断した。6月23日現在で全州の72%が完熟しており（昨年：63%、平年：71%）、全体で28%（昨年：34%、平年：32%）が収穫された。完熟しているが収穫が平年より遅れ気味なのは、降雨が有った為である。その後高温・乾燥気象が続き枯熟・収穫が急速に進み、6月30日には全州の87%で収穫が完了した（昨年同期：72%、平年：57%）。全州での収穫は平年より凡そ10日程早く、7月1日までに略完了した。

作付面積：

2002年産の作付面積は9,500,000エーカーと発表されている。カンサス州の小麦作付けは過去数年減少傾向にあり、2000年産冬小麦の作付面積（980万エーカー）以来3年連続して1,000万エーカー未満の作付けと成った。作付けの減少地区は乾燥の激しいNW、WC、SW、NC等であり、同州の小麦主産地区である。2002年産冬小麦の作付け農家数は31,000戸。平均306エーカー/農家であった。

地区別/年産別作付面積の推移：（単位：1,000エーカー）

Crop	NW	WC	SW	NC	C	SC	NE	EC	SE	State
2000	1,090	1,200	1,530	1,290	1,560	2,210	200	210	510	9,800
2001	1,100	1,210	1,590	1,350	1,510	2,140	190	230	480	9,800
2002	1,050	1,200	1,530	1,220	1,440	2,170	145	215	530	9,500

作付け品種：

2002年産硬質冬小麦の作付け主力品種は、カンサス州農事試験場及び農務省等により育成された品種“Jagger”である。全作付面積の42.8%にJaggerが作付けられ、2001年産に引き続き作付け第一位である。南中央地区の小麦作付面積の63.4%がJaggerである。2位は“2137”で15.5%、3位はKarl/Karl 92となっている。数品種を混ぜ播種する方法が1998年産から行われており、此れを分類上“Blends”とされているが、2002年では“Blends”の圃場は11.4%となっている。過去3年間の作付け順位と作付面積比率は次の通りである。

	2000 Crop	2001 Crop	2002 Crop
Jagger	34.0 %	35.8 %	42.8 %
2137	23.1	22.3	15.5
Karl/Karl 92	3.5	3.3	3.6
2174	1.1	3.0	3.1
TAM 110	1.3	2.8	3.0

Trego	0	0.3	0.8
Blends	7.5	7.0	11.4
Other Hard White	0.2	0.5	0.3

1999年産より主に州西部地区に於いてHard White Wheatの作付けが開始され出した。上記表のTregoはHWWである。Trego以外にBetty、Heyne等が有り今期の作付面積は凡そ16万エーカー以上と言われる。今後増加の見通しである。

生産量：(2002年8月1日付け農務省冬小麦生産量予想)

カンサス州の2002年産小麦の生産量は、単位収量33.0ブッシェル/エーカーで264百万ブッシェル(約718.5万トン、2001年産に対し20%減)と発表された。

	Are Harvested		Yield			Production	
	2001 1000 Ac	2002 1000 Ac	2001 bu/ac	2002		2001 1000 Bu	2002 1000 Bu
				July 1	Aug. 1		
Kansas	8,200	8,000	40.0	35.0	33.0	328,000	264,000
USA	31,295	29,764	43.5	39.6	38.9	1,361,479	1,158,710

2002年産小麦の品質：(Kansas Wheat Commission、Kansas Department Agriculture及びKansas State Universityによるサーベータ結果)

2002年産硬質赤色冬小麦の品質概況は、カンサス州農業統計局の発表によれば、全州平均の蛋白質(水分12%ベース)：13.1%(2001年産：12.1%)、容積重：60.0 lbs/bu(2001年産：60.9 lbs)、小麦水分：11.2%(2001年産：11.8%)、夾雑物：0.5%(2001年産：0.8%)と発表されている。

小麦産地別の詳細は下表の通り。

District	2002 Samples	Dockage		Test Weight			Protein Content			Moisture		
		2001	2002	*Ave	2001	2002	*Ave	2001	2002	*Ave	2001	2002
NW	900	0.9	0.7	59.8	59.5	59.6	12.4	12.7	13.9	11.5	11.3	10.2
WC	724	0.9	0.6	60.4	60.5	59.9	12.0	12.3	13.0	11.6	11.5	10.6
SW	880	0.6	0.6	60.3	61.8	60.0	12.4	12.9	13.4	11.3	11.0	10.7
NC	2063	0.9	0.4	59.7	61.0	61.3	12.1	12.3	13.4	11.9	12.2	10.8
C	1763	0.8	0.5	60.1	60.8	59.7	12.1	11.8	13.0	12.0	12.2	11.6
SC	1800	0.6	0.5	60.1	61.3	59.7	12.1	11.6	13.1	12.0	12.0	11.9
NE	80	0.4	0.3	59.4	62.2	63.6	11.6	11.8	11.3	12.6	12.8	11.5
EC	82	0.4	0.6	60.0	59.7	60.2	11.7	10.6	11.2	12.4	12.2	11.9
SE	1189	1.0	0.7	58.9	60.4	59.6	11.2	10.7	11.3	12.8	12.3	12.5
State	9481	0.5	0.8	60.0	60.9	60.0	12.1	12.1	13.1	11.8	11.8	11.2

*Ave.：1991-2000年産(10年)の平均値を意味する。

当該サーベータによると、蛋白質の最も高かった郡はSC地区のGrant郡であり、同郡の平均蛋白含有量は14.6%であった。尚、地区別に蛋白質含有量を見るとNW地区の小麦が最も高い数値(13.9%)を示している。

品種別の小麦粉の試験結果(於：カンサス州立大学、Grain Science and

Industry) は次の通り発表されている。分析サンプル数は Jagger : 98 点、2137 : 45 点、TAM 110 : 11 点、Karl 92 : 8 点、Ike : 11 点等、総計 308 点である。

Variety	Prot. 12%MB	Test Weight	1000 K. W. 12%MB	Gluten		Milling		Flour Protein 14%MB	Farinograph			
				Wet	Dry	Extra- ction	Ash 14%MB		Absor- ption	Peak Time	Stab- lity	Soft- ening
	%	Lb/bu	gr	Percent		Percent		Percent	Percent	Minutes	Degree	
Jagger	13.7	59.2	30.7	32.6	12.3	67.1	0.53	12.1	58.3	6.1	15	28
2137	13.2	59.0	30.8	32.2	12.1	66.1	0.50	11.7	57.0	6.9	15	28
2174	13.2	58.8	30.9	31.9	11.8	66.6	0.49	11.3	56.7	7.5	14	30
Ike	15.1	58.4	31.6	35.6	13.4	66.8	0.52	13.4	60.1	11.0	13	20
TAM 107	14.0	57.4	29.9	38.7	13.4	65.1	0.48	12.6	59.6	9.0	18	15
All Ave	13.6	59.3	31.2	33.2	12.4	66.9	0.51	12.0	58.0	7.6	16	23

カンサス州の 2002 年産冬小麦（硬質赤色）の品質は、降水量不足並びに枯熟期（6 月以降）の高温により、主産地である SC、C、SW 地区等で生産された小麦は低容積重、高蛋白質の結果を顕著に示した。州平均の容積重が 10 年平均の 60.0 ポンドに収まったのは、5 月に気温が平年より下がった結果である。乾燥気象は小麦だけでなく雑草の生育も阻害し、結果として夾雑物の混入は例年より低くなったと言えよう。

以上

当該報告書に関するご質問・ご意見は下記宛てにお願い致します。

小川正晃 : E-mail ogawa.max@omicnet.com